

文献

市場 恵子, 辻川 真弓, 坂口 美和, 吉田 和枝. がん患者の倦怠感に対するアロママッサージの有効性. 日本統合医療学会誌. 2015; 8(2): 29-37. 医中誌 web ID 2016081930

1. 目的

倦怠感を有するがん患者へのアロママッサージの有効性を検討する。

2. 研究デザイン

比較試験、クロスオーバー法

3. セッティング

記載無し

4. 参加者

倦怠感を有するがん患者 28 人 (平均年齢 70.0±12.2 歳、男性 20 人、女性 8 人)

5. 介入

Arm 1 (アロママッサージ群) : ユズ精油とホホバオイルを用い、膝より遠位下肢 (足底を含む) に対して軽擦法により左右各 10 分間 (合計 20 分間) 実施した。

Arm 2 (マッサージ群) : ホホバオイルを用い、膝より遠位下肢 (足底を含む) に対して軽擦法により左右各 10 分間 (合計 20 分間) 実施。

Arm 3 (安静群) : 臥位安静 20 分間

6. 主なアウトカム評価項目

主観的指標 : CFS ; Cancer Fatigue Scale (倦怠感の指標 ; 身体的、精神的、認知的、総合的) 、リラックス度 VAS ; Visual Analogue Scale

客観的指標 : CVR-R (Coefficient of variation of R-R intervals ; 副交感神経の活動活性の指標) 、HF (高周波成分 ; 副交感神経の活動活性の指標) 、LF/HF (交感神経活動のバランスの指標) *加速度脈波測定器により測定。評価項目は介入前、介入 10 分後、介入 60 分後に測定した。

7. 主な結果

CFS (倦怠感) およびリラックス度 VAS は介入後 10 分および介入 60 分では Arm 1 と Arm 2 のいずれも Arm 3 より有意に緩和していた ($p < 0.05$) 。 Arm 1 と Arm 2 では有意差はなかった。CVR-R は、介入後 10 分の時点において、Arm 1 と Arm 2 は、Arm 3 より有意に高く ($p < 0.05$) 、副交感神経優位の状態をもたらした。HF および LF/HF は、群間、群内に有意差はみられなかった。

8. 結論

アロママッサージとマッサージは、施術後のがん患者の倦怠感やリラックス度を緩和し、副交感神経優位の状態にする。

9. 論文中の安全性評価

記載なし

10. Abstractor のコメント

倦怠感を有するがん患者に対するアロママッサージとマッサージの有効性について主観的指標とともに自律神経活動の活性を指標に検討した貴重な研究で臨床的意義は大きい。施術者を特定の一人に固定しており、一定の再現性を担保している点で結果の信頼性を高めている。ただ、施術は割り付けがランダム化されているかは確認できなかった。がん患者が増加する中で、マッサージの有効性を検討した本研究への期待は大きい。

11. Abstractor and date

近藤宏 2021. 11. 20